

連載

51 在宅医療奮闘記

平成7年より
在宅を開始した 私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長
橋本 満義 (64歳・内科)

双海町の夕日は 神戸100万ドルの夜景に勝る



平成7年ころ、国策により老人デイケア(医療機関がバスで送迎し、医院の規定された部屋でレクリエーションやリハビリなどを行い、ADL(日常生活動作)向上を目指す)業務を開始しました。

同年夏のある日の午後6時から、当院職員の知人T子さん(大正7年生まれ、変形性脊椎症・膝関節症)を通して、老人デイケア説明会を山の中腹にある双海町公民館集会所で大々的に開催することとなりました。

当日、私と職員3人は、せっかくなのでドライブ観光も兼ねて松山を早く出、きれいな砂浜の「ふたみシー

サイド公園」に行ってみました。松山で開業していた私にとってきれいな海を見るのは久しぶりのことで、しばらく海を眺めながら磯の香りの心地よさを五感で感じていたのです。そして午後5時すぎに会場に到着した私たちは、講演の準備も済ませ参加者のみなさんを待っていました。ですが、定刻になっても誰一人やっこないのです。急いで今回の連絡係であるT子さん宅に車で向かいました。すると、Tさんは腰と膝が痛いので動けずに横になっていたのです。

送迎付きになってしまいましたが、そうこうしているうちに5名の参加者を迎え、当院スタッフ4名による大講演会が始まりました。私は壇上にあがり、挨拶をはじめました。が、誰も聞いていません。それもそのはず、白内障で視力低下の方や難聴の方、歩行困難で座れないため横になってしまう方など、みなさん病気がちで普段出かけることもなく家に籠った状態の方たちばかりで、久しぶりに顔を合わせたため安否の確

認など、あちこちでおしゃべりが始まっていたのでした。車座になって話すみなさんの中に、私もすぐ参加しました。そして、腰痛で横になってる方に坐骨神経ブロックの鎮痛処置を行なったところ、とても喜んで感謝してくださいました。

説明会の時間も過ぎ、はたして今回のこの会は成功だったのだろうかなどと不安になりながらも帰路に就きました。山の中腹でふと海を見てみると、突然、言葉には言い表せないほど素晴らしい夕日が目に飛び込んできたのです。あまりに美しいその光景を眺めていたかったのか、知らず知らずのうちに車を山頂へ向かわせていました。そして何時間も、そのパノラマの余韻にひたっていました。自然界の醸し出す光景は、人工の絵とは違い五感で感じとることができ、第六感(魂)にも響き、感動と感激をもたらしてくれたのです。

後日、町役場で、医療介護業務許可(老人デイケアと無医村往診)をいただきました。平成12年の介護

保険施行後の老人デイケア業務中止までの数年間は、参加を希望される方が多く、新患さんをお断りしなくてはならないなど、たいそう迷惑をおかけしお詫びの日々でした。

高齢者は通常、歩行困難や認知症そして五感機能低下により、閉じこもりや寝たきり傾向や不潔状態になりやすいのです。さらに、寝たきり傾向になると、急速に廃用症候群(すべての生理機能が低下する状態)になり、食欲低下、脱水症、生命の危機となります。それを予防するため「老人デイケア」「デイサービス」事業が平成7年から始まったのです。

初めて目にした自然界が醸し出す双海町の「夕焼け」はとても素晴らしく、時間とともに表情が変わり、四次元(三次元+時間)で五感プラス第六感(霊・魂)に響きます。人工的な神戸の100万ドルの夜景も素晴らしいものですが、自然界の「しぐさ」から醸し出される魅力の足元にも及ばないでしょう。

「お医者さんが来てくれる」

24時間・365日態勢で対応(松山市全域)

私たちは質の高い在宅医療・看護・介護を目指しています。



医師数 18名
(常勤6名、非常勤12名)

内科・外科専門医 15名
(国立がんセンター勤務歴有3名)

精神科専門医 2名
麻酔科専門医 1名
(ペインクリニック科)

末期がん治療(緩和ケア)相談室開設!

Hyper Blood Viscosity(高血液粘度群)を科学する
臨床生命科学(体質・病態学、栄養学)研究所開設

機能強化型・有床 在宅療養支援診療所

(医)東西会 千舟町クリニック

松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788

<http://www.touzaikai.jp/>